



# のりお通信

## 将来の仙台のために「共創推進」

皆様お元気でしょうか。私の市政報告をお読みいただきありがとうございます。

日本は、人口減少超高齢化社会に突入しています。仙台市の人口も、2020年頃をピークに減少に転じます。30年後には100万人を下回り、高齢化率は40%に近づきます。

これからの仙台市政の課題は、持続可能な豊かな社会をいかに実現していくかです。重要な視点は、行政だけでやるのではなく、民間、市民に参加していただき、一緒に創りあげていくことです。「人生100年時代」のまちづくりは、行政と民間の「共創」が不可欠です。

共創という言葉は、ビジネス分野では広く使われており、大学の学部学科の名称にも使われています。また、自治体での取組も増えていきます。

仙台市においても、共創によるまちづくりを進めていくことが肝要です。具体的には、財源確保と整備手法が課題となっている泉区役所の建て替えについて、民間の提案を積極的に取り入れ、交通渋滞やバスプールの再整備などの

課題を解決していくことが求められます。

また、郊外部の足の確保も重要な課題です。先日、泉区寺岡地区で実証実験が行われました。東北大学が中心となって産学官で設立した「東北次世代移動体システム技術実証コンソーシアム」による、小型低速EVバスを用いた次世代移動サービスの試験運行です。高齢者の日常生活の移動手段としても注目されます。地域交通の確保についても共創による取組を進めていく必要があります。

民間と共創することで、新しいビジネスも生まれ、地域経済の活性化に繋がります。

今後とも、様々な行政課題の解決に向け、常に前向きに私も頑張っています。皆様のご指導ご鞭撻をお願いします。

次世代移動サービスの実証実験



仙台市の将来人口と高齢化率

